

宮代町郷土資料館だより

えんがわ

第23号

冬至の火渡りバスツアー

逆井地区では毎年、家内安全、商売繁盛、交通安全などを祈願して、「冬至の火渡り」が行われています。

これを多くの人に体験していただこうと、12月22日にバスツアーを行いました。

はじめに郷土資料館の会議室において「冬至の火渡り」がどういうものかビデオにより予習をしました。

次に現地に向かい埼玉普寛講の皆さんによる祈祷を見学。その後、火渡りの体験をしました。

火渡りは二列に燃えている薪の間を歩き、次に炎の落ちた（まだ所々赤く燃えている。）炭の上を裸足で渡ります。

この時にできた炭でお餅を焼いて食べると病気になるいと言われていいます。

埼玉普寛講は木曾御岳神社を信仰する講で、宮代町では山崎、逆井、金原、和戸に先達や世話人がいます。

冬至の日には、こうした行事が現在でも行われています。



埼玉普寛講による祈祷を見学



実際に火渡りを体験しました。

郷土史講座



資料館では「宮代の歴史～宮代の通史を学ぶ～」と題し、今年も郷土史講座を開催しました。

これは宮代町17,000年の歴史を各時代ごとに学び、町の歩みを広い視野に立って理解を深めていただく目的で行いました。

講師は、もうすぐ刊行予定の宮代町史「通史編」の執筆者である、奥野麦生先生、林貴史先生、新井浩文先生、島村圭一先生、飯山実先生にお願いしました。

日時・内容等は下記の通りです。

第1回	2月10日	原始・古代編	奥野先生
第2回	2月17日	近世編	林先生
第3回	2月24日	中世編	新井先生
第4回	3月3日	近現代編	島村先生
第5回	3月9日	金石編	飯山先生

季節展示

資料館では、季節を通して行われる年中行事をレプリカで再現して展示しており、四季折々の行事を見学できます。

加藤家において展示していますので、お立ち寄りの際には是非ご覧ください。ここでは1月・2月の展示を紹介します。

正月（1月展示）

昨年12月19日から1月9日まで、正月の展示（鏡餅・雑煮・七草粥）を行いました。

一般的にお正月にはお餅がつきものですが、「正月に餅を用いない」というところもあります。このような「ならわし」を民俗学では餅なし正月と言います。

餅なし正月には「正月は餅を供えない、食べない」や「正月は餅を供えるが、食べない」などの種類があります。

宮代町内のいくつかの家では、現在でも餅なし正月を行っています。餅なし正月の理由については、残念ながら各家とも言い伝えは残されていません。

月の理由については、残念ながら各家とも言い伝えは残されていません。



雑煮（レプリカ）

小正月（1月展示）

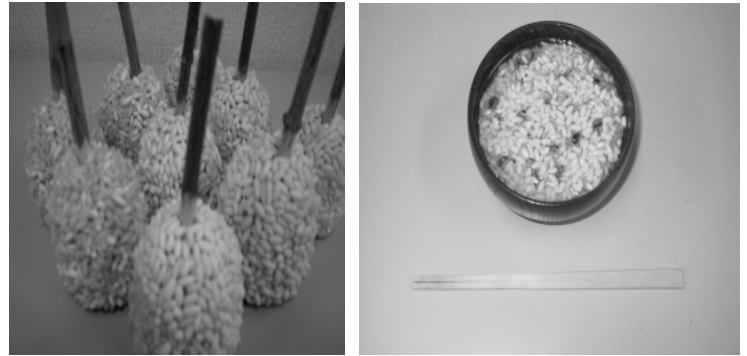
小正月は1月14日と15日に行われる行事です。

14日は**繭玉団子**（まゆだまだんご）を作ります。繭玉団子は、その年の作物がたわわに実ることを願って、ヤナギやケヤキの枝に団子を刺して作ります。また、ご飯にウツギの枝を刺して**オニタマ**を作ります。その数は12個から20個前後ですが家によって異なります。

15日の朝には**小豆粥**（あずきがゆ）を作り、繭玉団子の中に入れて食べます。

小正月は旧暦（太陰暦）を使っていた頃の正月の名残です。

1月10日から1月16日まで、繭玉団子・オニタマ・小豆粥を展示しました。



オニタマ（レプリカ） 小豆粥（レプリカ）

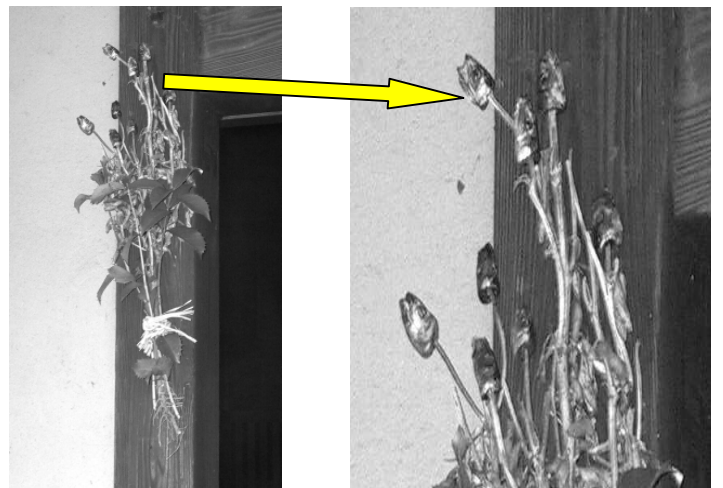
節分（1・2月展示）

節分の日には豆まきを行いますが、大豆は、豆殻などを燃やしながらかきまきして、まきました。煎った豆は一升枡に入れ、神棚に上げてからまきます。豆は「福は内、福は内、鬼は外」と言いながらかきまき、部屋の戸を閉めます。この豆は取っておいて、年の数だけ食べると長生きするとか、初雷様が鳴った時に食べると怪我をしないとか言われています。

鰯の頭を豆殻に挿したものを**八頭**（やつかがし）と言います。穀物の虫を退治できるよう、豆を煎ると同時に、八頭を「稲の虫もチリチリ、豆の虫もチリチリ」と唱えながら焼きます。

鰯の頭の数には家によって違いがあり、

8本であったり、12ヶ月分の12本だったり、家族の人数分だったりします。八頭は悪い病がはやらないように戸口に挿します。この八頭を1月23日から2月3日まで展示しました。



戸口に挿した八頭

鰯の頭

～ コラム クルミの木 ～

ひな祭り

▼ひな祭りは、貴族の女の子の厄除けと健康祈願のお祝いとしての桃の節句が、庶民の間にも定着して行われるようになったものです。▼単なるお祭りではなく、お七夜やお宮参りと同じく、女の子の健やかな成長を願う行事で、おひな様は降りかかろうとする災厄を代わりに引き受けてくれる守り神のようなものです。▼桃の節句の起源は平安時代にさかのぼります。昔の日本には五つの節句（上巳・上巳・端午・七夕・重陽）があり、当時、貴族の間でそれぞれ季節の節目に行われ、身のけがれを祓うための大切な行事でした。その中の1つ、上巳の節句（じょうしのせつく）が後に桃の節句となります。▼平安時代、上巳の節句の日に人々は野山に出て薬草を摘み、その薬草で体のけがれを祓って健康と厄除けを願いました。この行事が後に宮中において紙の着せかえ人形で遊ぶひいな遊びと融合し、自分の災厄を代わりに引き受けさせた紙人形を川に流す流し雛へと発展していきます。▼室町時代になると、この節句は3月3日に定着し、やがて紙の人形ではなく豪華なお雛様を飾って宮中で盛大にお祝いするようになりました。その行事が武家社会へ広がり、さらに裕福な商家や名主の家庭へと広がり、今のひな祭りの原型となっていきました。



ひな祭りの時期には旧加藤家において、寄贈していただいたひな人形を展示しています。

資料館寄贈者名簿

下記の皆様から歴史や文化に対する資料をご提供いただきました。厚く御礼を申し上げます。

並木 勇 氏	8mmカメラ	2点
	露出計	1点
	一眼レフカメラ	1点
	三脚（カメラ用）	1点
	ひな人形	1式
	嫁入道具	1式

資料館日誌抄

《平成14年1 / 1日～平成14年3 / 31》

1.	1	町史編集委員会議
2.	7	町史編集委員会議
3.	7	町史編集委員会議
2.	10	郷土史講座
2.	17	郷土史講座
2.	24	郷土史講座
3.	3	郷土史講座
3.	9	郷土史講座

宮代町郷土資料館だより えんがわ 第23号

発行日 平成14年3月31日

発行 宮代町郷土資料館

郵便番号 345-0817

住所 埼玉県南埼玉郡宮代町字西原289番地

電話番号 0480-34-8882

H P <http://www1.sphere.ne.jp/miyasiro/musiam/top.html>